

10周年を迎えた田んぼアートで田植え

6月17日・18日の2日間にわたり田んぼアートの田植えが行われました。

今年は田んぼアート10周年を記念し、古代蓮の里東側と南側の2つの田んぼで田んぼアートが実施されます。この2日間は東側の田んぼで田植えが行われ、テーマである「イナダヒメノミコトとスサノオノミコト」をボランティアや田植え体験の参加者で描きました。参加者が一生懸命植えた田んぼアートは7月中旬から見ごろを迎えます。



川の国埼玉はつらつプロジェクトが始動しました

5月29日、産業文化会館で、第1回川の国埼玉はつらつプロジェクト推進協議会が開催されました。この協議会は、埼玉県が推進する本プロジェクトに選定された「忍川・酒巻導水路」の2河川について、川の整備や川と一体となったまちづくりを検討していくために、自治会関係者、地域団体、県・市関係機関により組織されています。

今後、検討状況などについては、順次、市報ぎょうだや市ホームページでお知らせしていきます。



暑い夏を前に熱中症対策を学ぶ

6月16日、夏の熱中症予防推進大会が「みらい」文化ホールで開催されました。

今年も熱中症による搬送者ゼロを目標に掲げ、参加者全員で熱中症予防対策宣言を唱和しました。また、気象予報士の平井史生さんが今年の夏の気温や熱中症の予防や対処方法などについて講演。平井さんの分かりやすい解説を聞き、参加者より一層熱中症に関する知識を深めることができたようです。



たくさんの笑いに包まれ 礼儀や文化を学んだ狂言鑑賞会

6月20日、文化庁が主催する文化芸術による子供の育成事業として南河原小学校で芸術鑑賞会が開かれました。

はじめに和泉流狂言三宅狂言会の方から歴史などについて説明があり、その後、実際に袴狂言「盆山」が演じられました。

次に、児童全員で狂言の謡を語る練習が行われ、最後に代表の児童と教師が演者として加わり、「茸」を披露しました。

演じた児童は「1カ月前のけいこの時から日本ならではの礼儀や文化を学ぶことができ、本番も狂言をととても楽しく、演じることができました」と満足した表情を浮かべていました。



菊苗の配布に長い列

6月6日、菊苗の無料配布が郷土博物館前で行われました。この日用意された菊苗は厚物と管物合わせて約4,000本。午前9時前から、配布を心待ちにする人が東門の方まで列を作っていました。行田市菊花連絡協議会の会員から菊苗を受け取った人は「育てるのが難しいがきれいな花を咲かせたい」と話し、大輪の花を咲かせる日を今から楽しみにしているようでした。



行田市蓮の大使 木暮照子さんが 人形展開催に合わせ講演

6月14日～18日の5日間、郷土博物館企画展示室を会場に行田市蓮の大使で人形作家の木暮照子さんによる人形展が開催されました。

今回の人形展は、「蓮を讀える」をテーマに蓮の一生を表現した配置で、これまでに制作された日展や日本新工芸展の出品作品を中心に35点を展示。また、18日には同館講座室で「蓮の音を聴く」と題した記念講演が行われ、木暮さんが語る蓮の歴史や文化、蓮に対する思いに、訪れた人たちは聞き入っていました。



茶の湯体験で学ぶ日本の歴史や文化

6月20日、駒形にある遍照院で茶の湯体験学習が実施され、中央小学校6年生64人が参加しました。

これは、社会科の授業の一環として子供たちに室町時代の文化を学んでもらおうと同院の協力を得て毎年開催しているもの。少し緊張した面持ちでお茶をすすったり、茶せんを使ってお茶を立てたりした子供たちは、体験を通じて日本の歴史や文化を学んでいました。

